

横查情報月報



横浜市衛生研究所

令和4年10月号 目次

【検査結果】

医動物・種類同定検査結果（令和4年4月～9月）	1
夏期食品収去検査結果（令和4年度）	4
遺伝子組換え食品の検査結果（令和4年度）	6

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報（令和4年9月）	8
-----------------------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和4年9月）	10
----------------------------	----

* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

医動物・種類同定検査結果（令和4年4月～9月）

医動物担当では、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かると、効果的な対策を立てることにつながります。

令和4年4月から9月の6か月間の種類同定検査報告件数は、昆虫類4件(カメムシ目1件、コウチュウ目1件、ハチ目2件)、その他の節足動物3件(クモ目3件)でした。

検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等 (相談月)	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
マンション3階に住んでいる。家の掃除をしていたら虫を発見した。 (8月)		ハナカメムシ科 (カメムシ目)	微小なカメムシで、体はやや扁平、頭部が前方に突出する。 捕食性で、多くは植物上で生活するが、枯れ枝、わら束、倒木の樹皮下等で生活するものもいる。
マンション洋室の窓側付近とフローリング上に多数の虫が発生している。 (8月)		ムナビロヒメマキムシ (コウチュウ目)	成虫、幼虫ともカビを食する。野外では、樹皮下、枯木、薪、わらなどでみられる。屋内では、製薬工場や食品工場等の倉庫内のパレットやカビの生えた壁などにみられる。畳に発生することもあり、家屋害虫としては本科の中では最も普通にみられる種である。
部屋の網戸に小さな虫が大量に付いていた。 (7月)		ムカシハナバチ科 (ハチ目)	夏から秋に出現し、地中または地上営巣性である。 ムカシハナバチ科は、花粉を蜜とともに、胃中に飲み込んで巣に持ち帰る。他のハナバチ類は、花粉を体表の被毛に付けて運搬する。

成虫、茶褐色、約1.8mm

成虫、赤褐色、約1.3mm

成虫、
黒色・一部黄色、約7mm

相談内容・発生状況等 〈相談月〉	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
風呂場や洗面台に虫が多数這いまわっていた。 〈7月〉	 <p>有翅虫(雌)、黒褐色、約8mm</p>	ヤマアリ亜科の有翅虫(雌) (ハチ目)	本科は、温帯地方では大型で活発な種類を含み、地上活動性の種も多い。営巣場所は多くの種では地中である。アリ類は決まった時期、無数の有翅虫(雌雄成虫)が、結婚飛行のため巣から飛び立つ。飛行を終えた雌成虫は、地上に降り、翅を落とす。
小さな虫に左足を刺され、つぶしたが、同じような虫が首筋を這っていた。 〈7月〉	 <p>雄成虫、赤褐色、約2.5mm</p>	アズチグモの雄 (クモ目)	草木や灌木の花上で訪花性の昆虫を待ち伏せる。雌と雄では体長、体色が異なる。雄は体長3mm内外と小型で、赤褐色をしている。
会社敷地内でクモを発見した。 〈8月〉	 <p>背面</p> <p>雌成虫、黒色・背面に赤い斑紋、約10mm</p>  <p>腹面</p> <p>腹面に赤い砂時計型の斑紋</p>  <p>卵囊、黄褐色、約8mm (搬入時潰れていた)</p>	セアカゴケグモの雌成虫及び卵囊 (クモ目)	基本的に攻撃性はないが毒を持っており、外来生物法に基づく特定外来生物に指定されている。体色は黒く、背面中央部に赤い縦長の斑紋、腹面にゴケグモ類特有(砂時計型)の赤い斑紋がみられる。卵囊は、白または黄褐色、外側はスムーズで突起などはない。

相談内容・発生状況等 (相談月)	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
家庭菜園のトマトの葉を寄せ集めた部分にハイイロゴケグモと疑われる虫体及び卵囊が確認された。 (8月)	<div data-bbox="400 277 743 533">  <p>雌成虫:背面</p> </div> <div data-bbox="400 539 743 607"> <p>褐色・背面に斑紋がある、約10mm</p> </div> <div data-bbox="400 613 743 869">  <p>雌成虫:腹面</p> </div> <div data-bbox="400 875 743 909"> <p>赤い砂時計型の斑紋がある</p> </div> <div data-bbox="400 920 743 1176">  <p>雄成虫:背面</p> </div> <div data-bbox="400 1182 743 1438">  <p>雄成虫:腹面</p> </div> <div data-bbox="400 1444 743 1512"> <p>赤い砂時計型の斑紋がある 約3.5mm</p> </div> <div data-bbox="400 1525 743 1780">  <p>乳白色、金平糖状の形、約8mm</p> </div>	ハイイロゴケグモの雌成虫、雄成虫、及び卵囊 (クモ目)	基本的に攻撃性はないが毒を持っており、外来生物法に基づく特定外来生物に指定されている。 体は褐色、灰色または黒色で個体差がある。腹部背面の正中線上に斑紋がある。腹面にゴケグモ類特有(砂時計型)の赤い斑紋がみられる。 卵囊は、ハイイロゴケグモ特有の金平糖状の形をしている。 全世界の熱帯、亜熱帯、温帯の一部に分布する。

横浜市内で確認されたゴケグモ属については、以下のウェブページに掲載されています。

(※)【参考】ゴケグモに注意

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/sumai-kurashi/seikatsu/kokyo/gaichu/seakagokegumo.html>

(横浜市健康福祉局ウェブページ)

【 微生物検査研究課 医動物担当 】

夏期食品収去検査結果（令和4年度）

夏期食品等一斉点検は厚生労働省から出された「令和4年度食品、添加物等の夏期一斉取締りの実施について」の通知に基づき、夏期に多発する食中毒等食品による事故防止と食品衛生の確保を目的に全国一斉に実施されるものです。

本市においても令和4年6月1日から8月31日までを重点監視期間と定め、一斉点検を行いました。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため一部の収去業務を縮小しています。

期間内に健康福祉局食品専門監視班と福祉保健センターが収去し、搬入された検体について、当所が行った検査の結果について報告します。

1 食品添加物検査

搬入された116検体（輸入品96検体、国産品20検体）の食品について、菓子類、野菜類・果実及びその加工品、清涼飲料水を重点的に保存料、着色料、甘味料など2,491項目の検査を実施しました（表1）。

輸入菓子から日本では使用が認められていない酸化防止剤（TBHQ）が検出され、福祉保健センターが輸入者を所管する自治体に調査を依頼しています。

表1 食品添加物検査

令和4年6月～8月

食品分類	検体数	違反検体数	項目数	検査項目						
				保存料	着色料	甘味料	酸化防止剤	漂白剤	発色剤	香料
肉卵類及びその加工品	3		49	9	34		3		3	
穀類及びその加工品	3		55	10	36		9			
野菜類・果実及びその加工品	23		483	73	340	46	14	10		
菓子類	30	1	584	79	357	79	66	1		2
清涼飲料水	22		659	220	357	57	3			22
酒精飲料	6		63	25	25	6	5			2
かん詰・びん詰食品	20		388	49	273	26	40			
その他の食品	9		210	24	158	12	16			
合 計	116	1	2,491	489	1,580	226	156	11	3	26

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

2 細菌検査

細菌検査の内訳は、魚介類9検体、肉卵類及びその加工品5検体、穀類及びその加工品12検体、清涼飲料水20検体、その他の食品36検体、計82検体191項目(表2)でした。

検査の結果、規格基準*1違反はありませんでした。

また、規格基準のないその他の食品36検体については、衛生規範*2の項目について検査を実施しました。

*1 規格基準とは、食品及び添加物について食品衛生法第11条により基準、規格を定めたもののことです。

*2 衛生規範とは、弁当、そうざい、漬物、洋生菓子及び生めん類について定められた衛生的な取り扱い等の指針のことです。食品衛生法の改正に伴い令和3年6月1日廃止されました。

横浜市では現在、食品営業者への衛生指導のための参考値として、衛生規範で示された数値を使用しています。

表2 細菌検査結果

令和4年6月～8月

食品分類	検査 検体数	検査 項目数	違反 検体数	違反理由
魚介類				
生食用鮮魚介類(刺身用切り身等)	9	9		
肉卵類及びその加工品				
食肉製品(ハム)	2	6		
非加熱食肉製品(生ハム・サラミ等)	3	12		
穀類及びその加工品				
生めん	8	24		
餃子・ワンタンの皮	4	12		
清涼飲料水				
清涼飲料水	19	19		
果汁入り飲料	1	1		
その他の食品				
加熱そうざい・弁当類(加熱品)	22	66		
非加熱そうざい・弁当類(非加熱品)	14	42		
合 計	82	191	0	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

遺伝子組換え食品の検査結果（令和4年度）

遺伝子組換え食品は、内閣府にある食品安全委員会で安全性に問題ないと判断され承認された後、国内での製造・輸入・販売等が可能になります。

横浜市では平成13年度から、安全性が未承認の遺伝子組換え食品が市内に流通していないか、また、適正な表示が行われているかを検査し確認しています。

今回は、令和4年4月と6月に、健康福祉局食品専門監視班が収去した「遺伝子組換え」の表示がない食品30検体の検査結果を報告します。

1 遺伝子組換えトウモロコシの定性検査

トウモロコシ加工品16検体について、安全性未承認の遺伝子組換えトウモロコシ(Bt10)^{*1}の定性検査を行いました。

検査の結果、いずれの検体からも検出されず、違反検体はありませんでした(表1)。

表1 遺伝子組換えトウモロコシ(Bt10)の検査結果

品名	原産国	検体数	検出数
コーンスナック菓子	日本(10)、メキシコ(1)	11	0
コーンスープ(液体・粉末)	日本	2	0
ホールコーン缶詰	タイ	1	0
タコシエル	ベルギー	1	0
どうもろこし粉	日本	1	0
計		16	0

^{*1} 除草剤耐性と害虫抵抗性を持つ遺伝子を組み込んだトウモロコシの品種です。過去にアメリカで安全性審査が行われていない種子が誤って流通し、栽培された事例がありました。日本では未承認で、食品衛生法により販売等が認められていないため、検出されれば「食品衛生法違反」になります。

2 遺伝子組換えコメの定性検査

コメ加工品10検体について、安全性未承認の遺伝子組換えコメ3品種(63Bt、NNBt、CpTI)^{*2}の定性検査を行いました。

検査の結果、いずれの検体からも検出されず、違反検体はありませんでした(表2)。

表2 遺伝子組換えコメ(63Bt、NNBt、CpTI)の検査結果

品名	原産国	検体数	検出数
米菓	日本	5	0
米粉、餅	日本	3	0
穀類加工品(ビーフン)	タイ	2	0
計		10	0

^{*2} いずれも害虫抵抗性を持つ遺伝子を組み込んだコメの品種です。日本では未承認で、食品衛生法により販売等が認められていないため、検出されれば「食品衛生法違反」になります。

3 遺伝子組換えダイズの定量検査

ダイズ穀粒4検体について、安全性承認済みの遺伝子組換えダイズ3品種(RRS、LLS、RRS2)^{*3}の定量検査を行いました。

定量検査の結果、いずれの検体も混入率は5%以下^{*4}であり、違反検体はありませんでした(表3)。

表3 遺伝子組換えダイズ(RRS、LLS、RRS2)の検査結果

品名	原産国	検体数	混入率5%を超える検体
ダイズ穀粒	アメリカ	4	0
計		4	0

^{*3} いずれも除草剤耐性を持つ遺伝子を組み込んだダイズの品種です。日本では、それぞれ平成13年(RRS)、平成14年(LLS)、平成19年(RRS2)に安全性審査を経て承認されています。

^{*4} 分別生産流通管理が適切に行われた場合でも、遺伝子組換え農作物の一定の混入は避けられないことから、ダイズでは5%以下の意図せざる混入が認められています。分別生産流通管理とは、遺伝子組換え農作物と非遺伝子組換え農作物を生産・流通・加工の各段階で相互に混入が起こらないよう管理し、そのことが書類等により証明されていることをいいます。分別生産流通管理が行われた遺伝子組換えダイズを原材料とした場合は「遺伝子組換え」等の表示、分別生産流通管理が行われていない場合は「遺伝子組換え不分別」等の表示が必要です(義務表示)。

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

衛生研究所WEBページ情報（令和4年9月）

横浜市衛生研究所ホームページ（衛生研究所WEBページ）は平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。

今回は、当WEBページにおける令和4年9月のアクセス件数、アクセス順位、追加・更新記事について報告します。

1 利用状況

(1) アクセス件数

令和4年9月の総アクセス数は、280,198件でした。前月に比べ9.7%増加しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*80.9%、保健情報13.2%、食品衛生1.4%、生活環境衛生1.2%、検査情報月報1.2%、薬事1.1%でした。

* 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

表1 令和4年9月 アクセス順位

順位	前月比	タイトル	件数
1	↑↑	パストレラ症について	22,630
2	↑	熱中症(熱射病、日射病)を予防しましょう	13,886
3	↓	水痘(水疱瘡)・带状疱疹について	13,743
4	↓	EBウイルスと伝染性単核症について	13,590
5	↓	ぎょう虫(蟯虫)症について	13,137
6	↓	トキソプラズマ症について	10,841
7	↓	手足口病について	10,086
8	↓	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	8,175
9	↑↑	猫ひっかき病について	7,903
10	↓	サイトメガロウイルス感染症について	7,458

(政策局広報課提供のデータを基に集計)

「パストレラ症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ha/pasteurella1.html>

「熱中症(熱射病、日射病)を予防しましょう」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/hokenjoho/wadai/necchusho/heat1.html>

「水痘(水疱瘡)・带状疱疹について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/sa/chicken1.html>

2 追加・更新記事

令和4年9月に追加・更新した主な記事は、8件でした(表2)。

表2 令和4年9月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
9月 2日	横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果	更新
9月 5日	熱中症情報(2022年9月5日)	掲載
9月 7日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第8回)	更新
9月12日	熱中症情報(2022年9月12日)	掲載
9月20日	熱中症情報(2022年9月20日)	掲載
9月26日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第9回)	更新
	熱中症情報(2022年9月26日)	掲載
9月29日	横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果	更新

【 感染症・疫学情報課 】

横浜市感染症発生動向調査報告（令和4年9月）

《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症が増加しています。
- 梅毒や性器クラミジア感染症など、性感染症が高い水準で続いています。
- 新型コロナウイルス感染症は第31週の報告数39,708件をピークに減少傾向にありますが、小児を含めた幅広い年齢層での感染がみられます。

◇ 全数把握の対象

＜9月期に報告された全数把握疾患＞

腸管出血性大腸菌感染症	21件	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	8件
パラチフス	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4件
E型肝炎	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	3件
デング熱	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
レジオネラ症	8件	侵襲性肺炎球菌感染症	3件
アメーバ赤痢	2件	梅毒	21件
ウイルス性肝炎	2件	播種性クリプトコックス症	1件

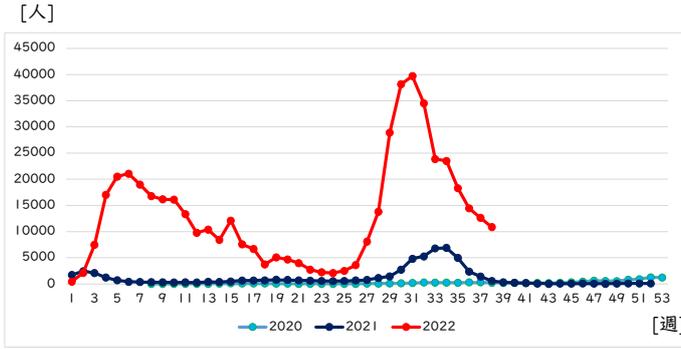
- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳未満～80歳代で、O157が13件、O26が5件、O111が2件、O不明が1件報告されました。10件は経口感染、11件は感染経路等不明でした。
- 2 **パラチフス**:20歳代で、海外での経口感染と推定されています。
- 3 **E型肝炎**:40歳代および50歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 4 **デング熱**:10歳代で、海外での蚊からの感染が推定されています。
- 5 **レジオネラ症**:40歳代～60歳代で、水系感染と推測される報告が4件、水系感染または塵埃感染と推測される報告が1件、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- 6 **アメーバ赤痢**:20歳代および40歳代で、いずれも性的接触による感染と推定されています。
- 7 **ウイルス性肝炎**:B型肝炎(20歳代および50歳代)の報告が2件ありました。いずれも性的接触による感染と推定されています。
- 8 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**:40歳代～80歳代で、感染経路等不明の報告が8件ありました。
- 9 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:50歳代～60歳代で、A群が3件、G群が1件報告されました。2件は創傷感染が推定され、2件は感染経路等不明でした。
- 10 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:40歳代～50歳代で、AIDSの報告が2件、無症状病原体保有者が1件報告されました。性的接触(同性間3件)による感染と推定されています。
- 11 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:60歳代(ワクチン接種歴不明)の報告が1件ありました。感染経路等は不明です。
- 12 **侵襲性肺炎球菌感染症**:40歳代～90歳代(ワクチン接種歴無1件、接種歴不明2件)の報告が3件ありました。1件は飛沫・飛沫核感染と推定され、2件は感染経路等不明です。
- 13 **梅毒**:10歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期11件、早期顕症梅毒Ⅱ期5件、晩期顕症梅毒1件、無症状病原体保有者4件の報告がありました。性的接触による感染と推定される報告が21件(異性間17件、同性間1件、異性および同性1件、詳細不明2件)でした。
- 14 **播種性クリプトコックス症**:80歳代で、感染経路等不明です。

◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

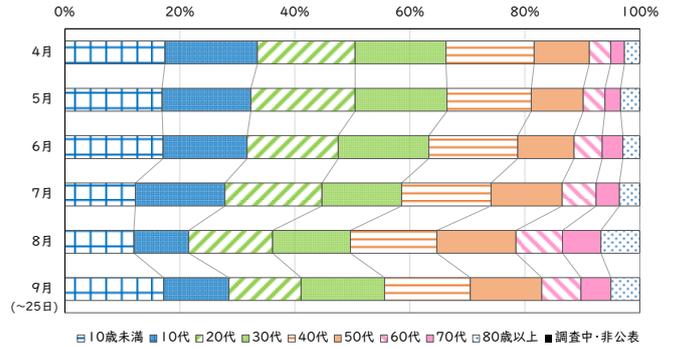
第34週～第38週に横浜市から報道発表がありました症例は79,704件でした。

◆横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>

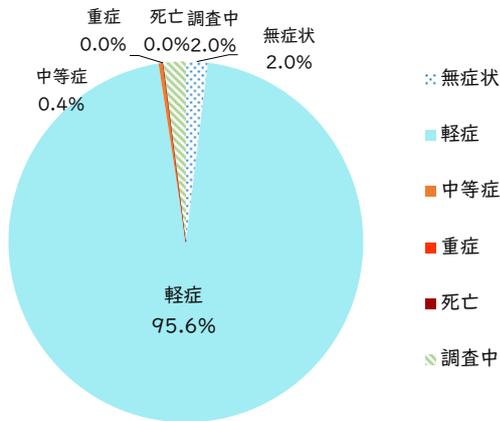
1 報告数の推移



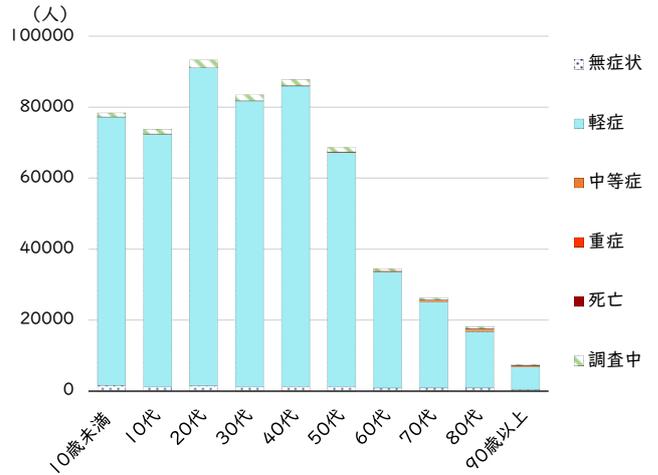
2 年齢層別患者割合



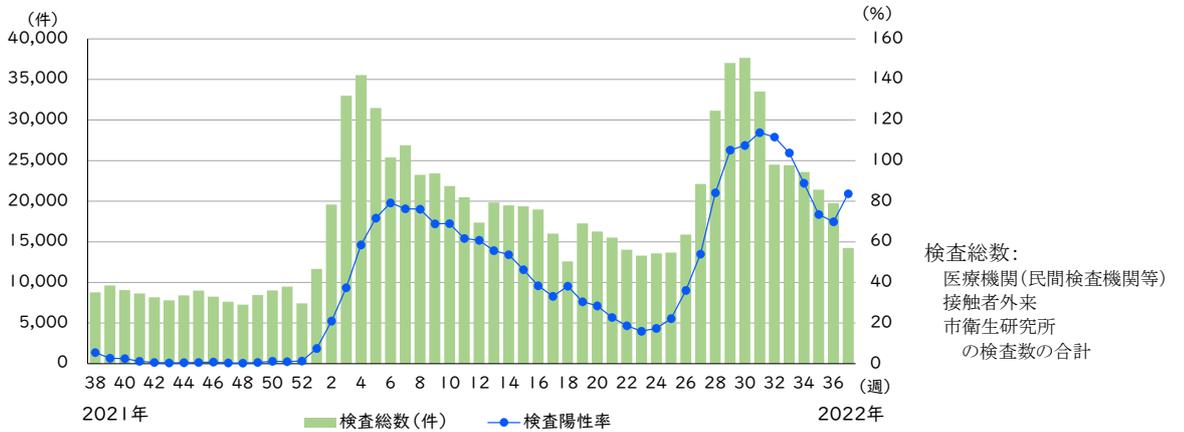
3 陽性確定時の症状の割合(2022年第38週まで)



4 陽性確定時の症状別人数(年代別) (2022年第38週まで)



5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況 (2021年第38週~2022年第37週)



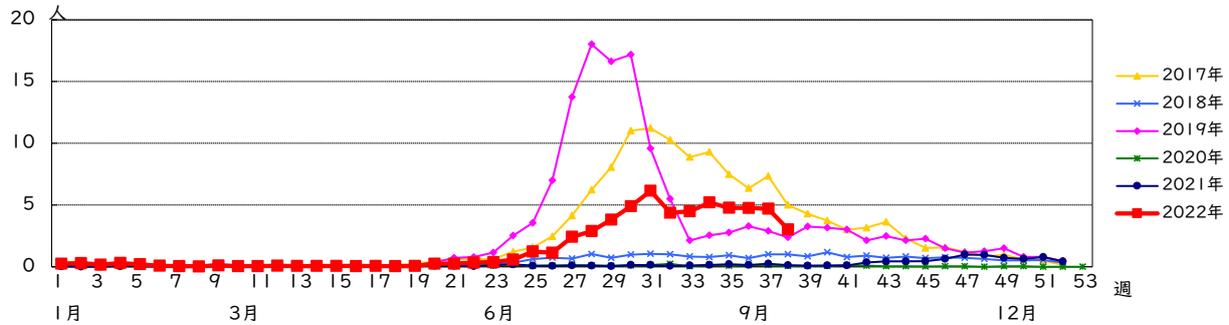
6 報告数と届出時点の重症度 (2021年第39週~2022年第38週)



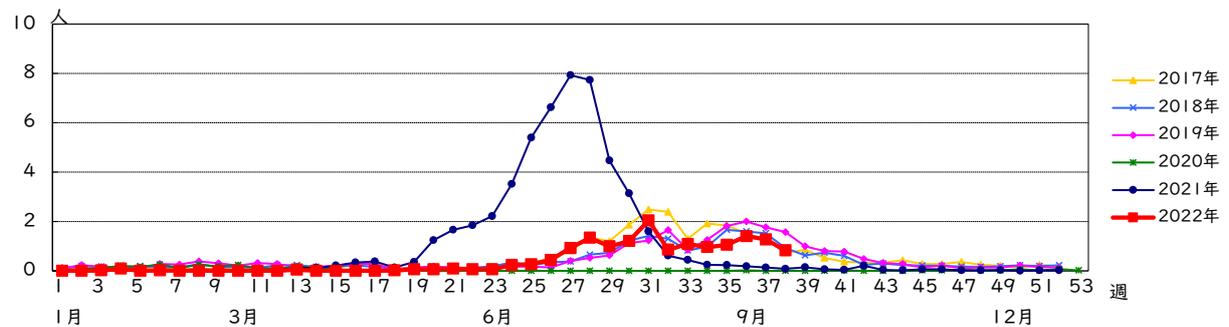
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第34週	8月22日～8月28日
第35週	8月29日～9月4日
第36週	9月5日～9月11日
第37週	9月12日～9月18日
第38週	9月19日～9月25日

1 手足口病：第20週以降増加が続き、第31週は6.14で、流行警報発令基準値5.00を上回りました。第34週5.19、第35週4.76、第36週4.76、第37週4.68、第38週3.01と、市内での流行は続いています。



2 RSウイルス：第24週以降増加が続き、第31週に2.03でピークを迎えましたが、第34週0.95、第35週1.05、第36週1.40、第37週1.27、第38週0.82と高めで推移しています。



3 性感染症(8月)

性器クラミジア感染症	男性:42件	女性:17件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:7件	女性:3件
尖圭コンジローマ	男性:12件	女性:6件	淋菌感染症	男性:19件	女性:5件

4 基幹定点週報

	第34週	第35週	第36週	第37週	第38週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(8月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

9月期(2022年第34週～第38週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点29件、眼科定点3件、定点外医療機関からは3件でした。

10月11日現在、ウイルス分離2株と各種ウイルス遺伝子29件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2022年第34週～第38週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	手足口病	口内炎
RSウイルスサブグループA	1	6		
RSウイルスサブグループB		1		
コクサッキーウイルスA6型	3		3	
ヒトメタニューモウイルス	1	6		
ヒトパレコウイルス1型	2	1		
ライノウイルス	2			
ヒトパラインフルエンザウイルス1型	1			
ヒトパラインフルエンザウイルス4型		1		
ヒトボカウイルス		1		
単純ヘルペスウイルス1型				1
合計	10	16	3	1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

9月期(2022年第34週～第38週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点からサルモネラ属菌2件でした。非定点からの依頼は、グラム陰性らせん状桿菌1件でした。保健所からの依頼は、腸管出血性大腸菌17件、パラチフスA菌1件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌12件、劇症型溶血レンサ球菌6件、侵襲性肺炎球菌2件、侵襲性インフルエンザ菌1件、レジオネラ属菌1件でした。

「分離同定」の検査依頼は、非定点から抗酸菌遺伝子1件、保健所からレジオネラ属菌4件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼はありませんでした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査 (2022年第34週～第38週)

菌株同定		項目	検体数	血清型等
医療機関	基幹定点	サルモネラ属菌	2	<i>Salmonella</i> O4群 (1)、 <i>Salmonella</i> Fluntern (1)
	非定点	グラム陰性らせん状桿菌	1	<i>Brachyspira aalborgi</i> (1)
保健所		腸管出血性大腸菌	17	O157 : H7 VT1 VT2 (8)、O157 : H7 VT2 (3)、 O26 : H11 VT1 (4)、O111 : H- VT1 VT2 (1)、 O8 : Hg9 VT2 (1)
		パラチフス A 菌	1	<i>Salmonella</i> Paratyphi A (1)
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	12	<i>Klebsiella aerogenes</i> (5)、 <i>Enterobacter cloacae</i> complex (3)、 <i>Klebsiella oxytoca</i> (2)、 <i>Escherichia coli</i> (1)、 <i>Serratia marcescens</i> (1)
		劇症型溶血性レンサ球菌	6	A群溶血性レンサ球菌 T13 (1)、 A群溶血性レンサ球菌 TUT (4)、 G群溶血性レンサ球菌 (1)
		侵襲性肺炎球菌	2	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 19型 (1)、 <i>Streptococcus pneumoniae</i> UT (1)
		侵襲性インフルエンザ菌	1	<i>Haemophilus influenzae</i> UT (1)
		レジオネラ属菌	1	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
医療機関	非定点 皮膚内閉鎖膿	抗酸菌遺伝子	1	<i>Mycobacterium ulcerans</i> PCR 陰性 (1) <i>Mycobacterium</i> 属 16SrRNA 検出
保健所	喀痰	レジオネラ属菌	4	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (2)、培養陰性 (2)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】